

試合終了のホイッスルは

植えられたばかりの苗が、それでも随分と草丈を伸ばして、吹き渡る風に涼しげに揺れている。心もとなげなこの植物があと3, 4か月もすると丈夫な茎をもち、黄金色の粒子をたわわに実らせる。驚くべき成長の早さだ。

1日から5日まで全県総体が行われた。3年生にとってはこれまでの部活動の総決算となる大会である。各部とも本高生らしく澁刺と、堂々とプレーし高校生活に忘れがたい記憶を刻んだ。女子柔道の3連覇は県内初の快挙である。柔道個人は男子73kg級、女子57kg級で優勝し、ボートは舵付4人スカルで男女アベック優勝を飾り、ともにインターハイ出場を決めた。陸上も男子100mで優勝し、東北大会へ出場する。本高の伝統の部が、伝統の力を見せてくれた。

本高には新しい力も育っていた。創立110年にして初めて全県3位となった女子バレーボール部である。地区総体で初戦敗退し、気持ちがばらばらになりかけた部を、一人一人をカバーしあって頑張ろうと、3年生が中心になって皆の心を一つに合わせることができた。女子バレーの乙女たちは明るく、伸び伸びと若鮎のようにコート内で躍動し、旋風を巻き起こしてくれた。



勝ってはじけるような笑顔があった。敗れて悔し涙にくれる顔があった。その涙の一粒一粒には3年間の部活動の様々な思いが凝集されているに違いない。

その時にみんなの脳裏に去来していたことは何だっただろう。右文尚武の校標を実現すべく、疲れた体にむち打つような気持ちで鉛筆を握ったこともあろう。記録が伸びず、人知れず苦しんだこともあろう。敗北、失意、阻喪、後悔、慚愧。しかし、みんなはそれを乗り越えてきた。それは厳然たる事実である。

ゲームは開始され、ゲームは終わる。試合の終わりを告げたホイッスルやブザーは、新しい闘いの始まりを告げている。今度みんなが戦うべき相手は誰か、しっかりと見極めることだ。きっと、これまでのどの相手よりも手強い相手となろう。

闘いは人を鍛え、人を強くする。これから数か月もすれば、今のみんなは驚くような成長を遂げる。根を深く伸ばし、ぐんぐんと葉を広げ、黄金色の実を結べ。

次に終了の合図が鳴ったときには、本高生の誰もがはじけるような笑顔でいるに違いない。